

なぜ今、中堅成長企業のクラウドERP導入が加速しているのか？

導入メリットからソリューション選定のポイントまでわかりやすく解説

「効率化」と「成長」が同時に求められる中堅成長企業の経営



現在、中堅成長企業の間で「クラウドERP」と呼ばれるITソリューションの導入事例が増えていますが、その背景には中堅成長企業に固有の事情や課題があります。ある総合人材サービス企業が実施した、国内企業の経営課題や意思決定プロセスに関する調査によると、中小企業が抱える経営課題のトップとして「人材不足」が、そして大企業の経営課題のトップとして「収益性の向上」が挙げられています。

一方、中堅成長企業は企業規模や人材確保の難易度から中小企業と同じく人材不足の課題を抱えつつ、同時に事業規模を急速に成長させているため大企業と同じく収益性の向上も求められています。この2つの課題に同時並行で取り組まざるを得ない中堅成長企業は、一般的な企業と比べ一際難しいかじ取りを迫られています。

人材不足の課題を解決するためには、限られた人的リソースの中で最大限の成果を発揮するために業務生産性の底上げが不可欠です。そして同時に、業務プロセスの効率化によるコストカットや、リアルタイムな経営情報に裏付けされた迅速な意思決定により、収益を最大化していくことも求められます。この困難なミッションを遂行する上で強力な武器となり得るのがクラウドERPなのです。

なぜ、中堅成長企業にとってクラウドERPの導入メリットが大きいのか

ERPは「Enterprise Resources Planning (企業資源計画)」の略称で、企業経営で重要となるヒト・モノ・カネというあらゆる経営資源を集約し、適切に管理・分配し、経営の効率化を図るための手法や、それを実現するシステムのことです。ERPシステムは企業経営に欠かせない基幹業務に関する情報を単一のデータベースの下で一元的に管理・可視化することで、情報活用を促進し、経営や業務の迅速な意思決定を支援するITソリューションです。日本国内では1990年代半ばから、独SAP社の製品を中心に大企業によるERPソフトウェアパッケージ製品の導入が進みました。

一方、ERP製品の導入には多額のコストと高度なスキルが求められるため、予算や人手に限りのある中堅成長企業の間では大企業ほど広く普及することはありませんでした。しかし近年、ITシステムを低コスト・短期間で導入できるクラウドの特色を生かした「クラウドERP」が登場したことで、風向きが変わりつつあります。

クラウドERPは、ベンダーがクラウド環境上に構築したERPシステムを利用するため、ユーザーが自らERPの環境を一から構

築する必要がありません。そのため、予算や人手に限りのある中堅成長企業にとって、導入のハードルが一気に低くなります。またクラウドERPではシステムがアップデートされ続けるため、ビジネスニーズや各国の法改定への対応はもちろんのこと、次々に生まれる新しいデジタル技術が組み込まれていきます。したがって、変わり続けるビジネス環境や組織、あるいはIT技術にも適応し続けることが可能となります。

クラウドERPのこうした特徴を生かして迅速にERPを導入し、これまで人手に頼ってきたバックオフィス業務を標準化・合理化することで人手不足の課題を解決するとともに、ビジネス環境の変化を素早く察知できる仕組みを手に入れることで、迅速な意思決定とそれに伴う収益向上も期待できます。



クラウドERP導入を検討する際に押さえておきたい「4つのポイント」

クラウドERPはあらゆる規模の企業にとって導入メリットがありますが、特に組織や事業構造がコンパクトな中堅成長企業は早期にメリットを得られます。しかし導入しようと思っても、現在市場には「クラウドERP」を謳う製品が多数存在しており、どれを選ぶべきか判断に迷うのではないのでしょうか。

そこで以下に、クラウドERPの製品選定に失敗しないためのポイントを幾つか挙げてみたいと思います。

1



最新のベストプラクティスが実装されているか

ERP製品にあらかじめ実装されている業務のベストプラクティスを導入することで、自社業務の最適化を図れます。そのため、自社の業種・業態にマッチしたベストプラクティスを実装したERP製品を選び、それに合わせて自社の業務を改善することで導入効果を最大化できます。

2



継続的に機能がアップデートされるか

クラウドERPの大きな導入メリットの1つに、機能アップデートがメーカーによって行われる点があります。これによりユーザーは自身で機能アップデートのコストやリスクを負担することなく、常に最新の機能やテクノロジーの恩恵を受けられるようになります。

3



グローバル展開に対応しているか

長期的な経営を考えるにあたり、国際対応力を高めることを必須の課題だと感じている中堅成長企業は多いでしょう。しかしながら、海外市場に打って出ても、バックオフィス業務が海外事業に対応できないばかりに収益やシェアを伸ばせず、やむなく撤退を余儀なくされるケースが少なくありません。そのため将来的に海外市場への進出を計画している場合は「グローバル対応しているかどうか」もクラウドERPを選ぶ上で重要な選定ポイントになります。

4



信頼できる導入パートナー企業はあるか

旧来のオンプレミス型ERP製品とは異なり、クラウドERPの導入や運用はユーザー企業が適切な戦略を立て、リソースを効果的に活用することで、負担を最小限に抑えることができる点が大きな特徴の1つです。とはいえ、すべての作業を自社でまかなうのはさすがに負担が大きいため、パートナー企業を頼る場面も少なくありません。従って、自社の要件に適した製品を検討する際に、パートナー企業が多い製品を選ぶことで、自社の規模や業界に精通したパートナー企業と出会うチャンスが広がります。万一、トラブルが発生した場合も他のパートナー企業と連携し柔軟に対応することが可能です。

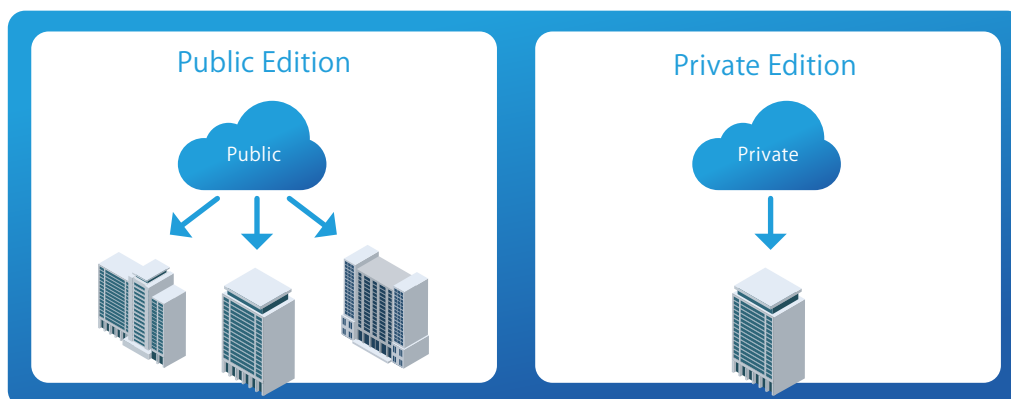
世界中で最も実績に優れたクラウドERP「SAP S/4HANA Cloud」

前項で挙げた4つの条件すべてに合致するクラウドERPの1つが、ERP市場のマーケットリーダーであるSAP社が提供する「SAP S/4HANA Cloud」です。これまで世界中のあらゆる業種・業態の企業で実績のあるベストプラクティスを、クラウドのメリットを生かして短期間・低コストで導入できます。

なおSAP S/4HANA Cloudには、他のユーザーとクラウド環境を共有する「Public Edition」と、自社専用のクラウド環境が提供される「Private Edition」の2種類がありますが、ここでは主に、中堅成長企業によりメリットのある「Public Edition」について説明をします。SAP S/4 HANA Public EditionはSAP社が提供しているシステムの標準機能をそのまま使用し、業務をシステムに合わせる「Fit to Standard」を基本として導入する手法です。そのため、拡張性やカスタマイズに制限はありますが、

新規開発がないため、低コストかつ短期間で導入でき、ビジネスのスピード感を重視する中堅成長企業の利用には適していると言えます。また、製品の機能追加やアップグレードも自動的に行われるため、より一層コストメリットを享受できるほか、AIやアナリティクスなど最新テクノロジーを活用した新機能がすぐ使えるようになるため、イノベーションの恩恵をいち早く受けて競合他社との差別化を図ることができます。

なお自社固有の業務プロセスをシステムにより細かく反映させたい場合は、Private Editionを選ぶことでクラウド環境を占有し、ERPに自由にカスタマイズを加えて独自機能を実装することも可能です。



SAP S/4HANA Cloudの導入パートナーとしてIPSが選ばれるわけ

SAP S/4HANA Cloudのもう一つの大きな強みは、日本国内に強力なパートナー企業を数多く有している点にあります。中でも株式会社アイ・ピー・エス（以下、IPS）は1997年の創業以来、一貫してSAPの導入・運用支援サービス事業を手掛けており、国内トップクラスの実績を誇ります。SAP社にもその実績は高く評価されており、最上位ランクのパートナーである「プラチナパートナー」の認定を受けているほか、2023年10月には国内初の「GROW with SAP認定パートナー」としての承認も受けています。

また世界各国の中堅成長企業向けSAPパートナー企業が集うアライアンス「United VARs」に日本代表として参画しており、海外に事業を展開する中堅成長企業に対するサポート体制も充実しています。さらには独自のテンプレート「EasyOne」も提供しており、日本企業特有のさまざまな業務要件にも対応しています。

<p>1</p>  <p>27年SAP専門</p>	<ul style="list-style-type: none">● 創業以来、SAPの導入・運用、活用支援を専門豊富な業務管理ノウハウ	<p>実績</p> <p>プライムプロジェクト150社以上 アライアンスプロジェクト10社</p>
<p>2</p>  <p>プラチナパートナー</p>	<ul style="list-style-type: none">● SAPの最上位パートナーランクを取得● 2023年10月「GROW with SAP認定パートナー制度」に国内第1号として承認	
<p>3</p>  <p>United VARs参画</p>	<ul style="list-style-type: none">● 世界のSAPパートナー70社以上が参画するグローバルネットワークに、日本代表として加盟● ステアリングコミッティーの一員として活動中● 世界100ヶ国以上にサービスを展開	

IPS では「システム導入ではなく、お客様の成功を目指して」という確固たるポリシーのもと、上記のようなさまざまな取り組みを通じて「経営手段としての ERP 導入」をお客様が正しく企画し、安全に導入することで経営課題の解決に役立てていただける総合的なサービスと IT ソリューションを提供しています。クラウド ERP の導入をお考えの方は、ぜひ気軽にご相談ください。